

し

え

ん

便

い

本年もよろしくお願いいたします

本校での巡回相談は12月までで、小学校16件、中学校5件の相談がありました。行動面や学習面についての相談や、現職教育での研修の実施をさせていただきました。

本年も巡回相談や教育相談をご活用下さい。コロナ禍の情勢に合わせて実施していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



相談窓口の紹介 Tel0735-31-6101

❄️ コーディネーター研修から

巡回相談や教育相談で、先生方や保護者の方から話を聞くときに、「共感」することの大切さを感じています。コーディネーター研修で、本校スクールカウンセラーより「共感」について学ぶ機会があり、その内容を紹介します。

私たちは、相手の話を聞いて悩みの大変さが分かり、「大変ですね」という相手への共感につながる体験をする。だから共感とは、「しなければいけないもの」ではなく、「分かると自発的に出てくる体験」であり、相手の悩みを具体的に理解することが共感につながる。

相手の話を理解するためには、

- ① 問題を「刺激—反応」の連鎖と捉える
- ② 抽象的な言葉で「分かった」と勘違いしない
- ③ 相手が「Yes」「No」で答えられるような問いかけをする

以上の3つのことが「共感」するためのスキルである。

そして、コーディネーターとして相談場面では、

- ① 相手を否定しない
 - ② 理解できなかったこと、抽象的な言葉で出てきたことは尋ねる
 - ③ 子どものことではなく、悩まれている先生、保護者の体験として聞く
- の3つのことに留意する必要がある。

「共感」は相談を受ける者として、しなければいけないことと捉えてはいましたが、「共感」に求められることを具体的に考える機会が今までありませんでした。今回の研修で、相手を感じている悩みへの具体的な理解が共感につながるということが、非常に印象に残りました。

❄️ 聴覚巡回相談

私たち Co は、聴覚支援体制の充実を図るために和歌山ろう学校を主とする聴覚支援のメンバーの巡回相談に同行する取り組みを実施しています。

先日、とある学校で聞こえの理解学習が行われました。内容は、耳の生育と聞こえにくさが起こる原因について学び、実際にイヤーマフを装着して、しりとりやグループディスカッションをして難聴の体験をするというものでした。体験では、ゆっくり大きな声で話したり、言ったことをお互い何度も確認したりしながら会話をする子どもたちの様子が見られました。学習を通して子ども達は、「難聴の人たちはどんな気持ちで生活しているか」「伝わりにくいときや聞き取れないときにどんな工夫をするか」について話し合い、「よく聞き取れないと自分がおかしなことを言っていないか不安な気持ちになった。」など、感じたことを発表していました。

私はこういった障害の理解学習の場面を見せていただき聞き取りにくいってどういうことなのか具体的な体験を通して考えたことの大切さを学び、「きっと、こういった体験が子ども達同士より分かり合えるきっかけになるのだろうなあ」と感動しました。



【注意】写真は加工して掲載しています。



❄️ 「障害のある子供の教育支援の手引」って知っていますか

研修会に参加し、「障害のある子供の教育支援の手引」があるということを知りました。その手引きには、障害のあるお子さん一人一人が必要としていることを整理するための考え方や、就学先の学校や学びの場を判断する際に重視する事項などが記され、お子さんや保護者の方、多様な関係者の方が、多角的・客観的に参画しながら、就学を始め、必要な支援を行う際の基本的な考え方が記されているということです。

その中で、早期からの教育相談(支援)、就学相談(支援)、学校や学びの場の変更を含む就学後の継続的な教育支援といった繋がりのある一連の教育支援を、そして、ご家庭や関係機関の方々と連携した教育支援を行うことが重要であると記されていました。

また、お子さん一人一人の自立と社会参加を見据えて、その時点でのその子が必要としていることに最も的確に答えることができるよう、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要であるとされていました。そのため、通常の学級、通級による指導、特別支援学級や特別支援学校といった連続性のある「多様な学びの場」を用意していくことが必要であるとも記されていました。

今回の研修会で、その子の必要としていることを的確に捉えることが大切で、それはその子とその子らしく充実した生活を送ることに繋がっていくのだと感じました。

上記の手引きは、文部科学省のホームページで読むことができ、それぞれの障害の状態などについて記されている項目などもありました。よろしければ、ご検索ください。